

“わたしのまち”

代官山駅を起点に東急東横線の線路と並行して渋谷方面へ続く八幡通り。両側には大小さまざまな個性的な店が並び、週末ともなると多くの人でにぎわう



渋谷区

いまをときめくまちと旧家屋

歴史と新しさが共存する魅力的なまち代官山

都会でありながら意外に自然豊かな代官山には、個性的な店も多く、子どもから大人まで若者も家族連れも誰もが楽しめるまちです。美しいまちなみの旧山手通りや八幡通りには魅力的な店が点在していますが、歴史を感じさせてくれるスポットもあります。大正8年に建てられた趣ある雰囲気のある旧朝倉家住宅やまちなかに残る古代の旧跡など、古いものと新しいものが共存するまち、代官山の魅力を紹介します。

都会の真ん中で和と自然を堪能

大正ロマン薫る旧朝倉家住宅

東急東横線の代官山駅周辺は、閑静な住宅街のほか大使館やおしゃれな店も多く、都心のわりにはみどりも豊富で、住みたいまちとして人気のエリアです。代官山のまちの雰囲気を感じながら大通りを歩くもよし、通りから一歩中に入って入り組んだ小路で個性的な店やカフェをめぐるのもよし、歩いてまわるのが楽しいエリアです。

そんな東京を代表するおしゃれエリアに、和と自然を堪能できる穴場的なスポットがあることはあまり知られていません。

大正から昭和にかけて東京府議会議



旧朝倉家住宅の土蔵。主屋の西側と連結しており、重厚な雰囲気を醸し出している(土蔵内部の見学は不可)

長や渋谷区議会議長を歴任した朝倉虎治郎氏によって建てられた旧朝倉家住宅では、大正ロマンの趣ある2階建ての建物とみどり豊かな庭園を見学することができます。

朝倉家は、江戸時代に現在の渋谷区猿楽町に農家として定住した大地主です。虎治郎氏の妻のタキの祖父にあたる金蔵氏が当主だった幕末頃から精米業を営むようになり、大正8年、虎治郎氏が朝倉家の本宅として、旧朝倉家住宅を建設しました。

敷地の北側に主屋が建ち、西に土蔵、東に庭門や附属屋(車庫)があり、屋根は瓦葺き、外壁は下見板張りの一部が漆喰塗りとなっているなど、明治か



**重要文化財
旧朝倉家住宅**

渋谷区猿楽町
29-20

1 旧朝倉家住宅の室内から庭園を望む。庭園には三田用水から引用した流れと小滝が配された名残があるほか、石灯籠などの添景物が多く配置され、主屋から眺めるとまるで額縁に入った絵を見るような景観になるよう意識されている
2 2階広間 3 2階廊下 4 杉の間

ら昭和にかけて建設された大規模な和風邸宅の特徴をあちこちに見ることができま。木造2階建ての主屋はほぼ全室が畳敷きで、接客のための書院造りの応接間や内向きの数寄屋風の座敷、茶室など機能に応じた異なる意匠が施されています。主人が使用していた部屋、家族が使用していた部屋、使用人が使用していた部屋及び広間に分けられ、趣向を凝らした欄間やふすま、板戸に描かれた絵画などが見所です。

庭園は崖線という地形を取り入れた斜面と平地からなる回遊式庭園で、敷地外の眺望を借景として取り入れ、建設当時は富士山や目黒川、田園風景が望めるような構成になっていました。この庭園では、春のツツジ、秋のモミジなど季節ごとの風景を楽しむことができます。例年、紅葉の見頃は12月上旬です。主屋の西側に中庭を取り囲むように連結している蔵は関東大震災の後に建て直されたもので、軸部は木造、外壁は鉄筋コンクリート造で、入口や窓は重量感のある鉄扉で作られています。土蔵の壁面には、火災の際に濡れ藁を巻き付けるための鉤が規則正しく施されており、鉤の周りの漆喰が丘状に盛り上がっているのが特徴的です。旧朝倉家住宅は東京都心部に残る、関東大震災よりも前に建てられた数少ない大正期の和風住宅として貴重であり、また、都市化が急速に進んだ周縁部にある住宅であることが近代の和風住宅の展開を知るうえで重要であるとして、国の重要文化財に指定されています。

みてはいかがでしょうか。

代官山に残る古墳・古代住居跡

今では大使館やオープンカフェなどが並ぶ代官山の目抜き通り、旧山手通りは、かつては静かな屋敷街でした。この辺りは30年前にはみどりの生い茂った傾斜地で、朝倉家が所有する建物が数棟あるだけだったそうです。

渋谷区では、先史時代の遺跡が約100か所確認されていますが、現在のその姿をとどめているのは数か所だけです。同区は急速に開発が進められてきた都心周縁部の一つであるため、区内

猿楽塚

渋谷区猿楽町29 ヒルサイドテラス内

「猿楽塚」と呼ばれる6～7世紀の古墳。この塚が、現在の猿楽町の町名の起源になっている



猿楽古代住居跡

渋谷区猿楽町12

発掘時にいくつか発見された住居跡の中には、ほかの地域で見られる住居跡よりも大型でめずらしいものもあった

ファッションブルなまち 代官山 おすすめスポット

ニュースポット

ログロード代官山 代官山駅からほど近く、東急東横線の地下化によってできたトンネル上部の全長220mの線路跡地に、今年4月に誕生した商業施設。ファッション、生活雑貨などを扱う日本初上陸の店をはじめ、ビール会社の新業態店では店内にブルワリー（小規模ビール醸造所）を設置し作りのクラフトビールが提供されている。
四季折々の花とみどりを楽しめる開放的な雰囲気、の散策路沿いに、5棟の商業店舗が並び、ショッピングや飲食が楽しめる。

まちのシンボル

ヒルサイドテラス 集合住宅、店舗、オフィスなどからなる複合施設で、白を基調としたモダンな建築は代官山のまちづくりの基本となった。昭和42年から30年以上もの歳月をかけて、幕張メッセや東京体育館等を手がけた日本を代表する建築家・横文彦氏によって建てられた。もともとこの場所は朝倉家の用地であったが、大正期の和風住宅の保存を望む同家の希望で、住宅の保存と同時にその周辺のまちづくりが行われた。
ヒルサイドテラスとその関連施設は、洗練された都市景観のモデルとして、世界中から高い評価を受けている。

で古代の遺跡を見ることはなかなかかむずかしいのですが、実は代官山には、区内ではほとんどが消滅してしまった6〜7世紀の遺跡が旧山手通り近くに残っているのです。

旧朝倉家住宅に隣接する複合施設「ヒルサイドテラス」内には2基の築山が並んでいるところがあり、いずれも6〜7世紀の死者を埋葬した円墳だと言われています。このうち高さ5mほどの大型のものは昔から「猿楽塚」と呼ばれ、江戸時代には、「我苦を去る」という意味から「去我苦塚」とも称されていました。この猿楽塚には、現在は天照皇大神、猿楽大明神などを祀る猿楽神社が建立されています。
さらにもう一つ、もつと古い時代の遺跡も代官山で見ることが出来ます。代官山駅の北、猿楽小学校に隣接する公園内に「猿楽古代住居跡」があります。昭和52年に行われた発掘調査で、住居跡や土器の破片が出土し、その模様から約2千年前の弥生時代後期のものであると推定されました。
このように代官山には、雑誌やテレビで取り上げられるような個性的な店が多く集まるおしゃれなまちとして知られる一方で、歴史を感じさせてくれる場所がまだまだ残されています。代官山に古代の遺跡とは意外かもしれませんが、散策の折にふと立ち寄って、代官山の歴史に思いを馳せるのもいいかもしれません。

代官山散策マップ

旧山手通りと交差する交番前の交差点から明治通りの並木橋へと続く通り。両側には代官山のランドマーク的な存在でもある代官山アドレスをはじめ、ファッションブティックや老舗のレストラン、オープンカフェなどが並び、買い物や食事に訪れる人でにぎわっている。通りから一本路地に入れば、個性的な店も多い。

代官山駅の南、駒沢通りと合流する鎗ヶ崎交差点から渋谷陸橋まで続く通り。両側にみどりの木が茂る美しい通り沿いには、歴史を感じさせる旧朝倉家住宅や代官山のまちづくりの先駆的存在であるヒルサイドテラス、各国大使館、公園、樹木に囲まれたカフェなどが並び、みどりとまちが調和した開放的な景観をつくっている。

旧山手通り

ヒルサイドテラス

